

カヤラン ラン科

Sarcophilus japonicus (Reichb.fil.) Miq.

鳥取県：絶滅危惧 類 (CR+EN)

環境省： -

選定理由 減少顕著，生育環境悪化，採取圧，局限・孤立，希少性。

生態・形態 低山域の樹木に着生する小形の常緑ラン科草本。県内では溪流沿いの岩尾根を立地とし樹木の枝に下垂して着生，明るく乾燥しているが空中湿度には恵まれている。茎は長さ約5cm，気根は多数。葉は互生，水平状に開平，10～20個，やや密，汚暗緑色，披針形，硬質，長さ約3cm。花は5月，淡黄色，小形，花柄は長く葉腋から出る。果実は円柱状，長さ約5cm。和名は葉の状態がカヤの葉に似ることによる。

分布 本州，四国，九州。

(県内)鳥取市，佐治村。

保護上の留意点 厳重な採取防止。谷沿いの自然林の保護。

